

資料2-1

科学技術・学術審議会
基本計画特別委員会(第8回)
平成21年11月19日

「日本の展望—学術からの提言 2010(素案)」について



平成21年(2009年) 11月19日

日本学術会議会長 金澤 一郎

本報告の流れ

1. 審議体制の概要
2. 素案の概要
3. 各章の構成と内容

1. 審議体制の概要

人文・社会科学
作業分科会

生命科学
作業分科会

理学・工学
作業分科会

知の創造分科会

テーマ1 現代市民社会における教養・教養教育 -21世紀のリベラルアーツの創造

基礎科学の長期展望分科会

テーマ2 基礎科学の推進、政策および長期展望 -学術の発展戦略

持続可能な世界分科会

テーマ3 持続可能な世界をいかに構築するか -人類の未来問題

地球環境問題分科会

テーマ4 地球環境科学と人類的課題 -その要請にいかに応えるか

世界とアジアのなかの日本分科会

テーマ5 世界とアジアのなかの日本 -日本の役割

大学と人材分科会

テーマ6 大学の役割と人材の育成 -大学と社会の連携

安全とリスク分科会

テーマ7 社会における安全とリスク -社会・科学技術・政治の協働

個人と国家分科会

テーマ8 現代における私と公、個人と国家 -新たな公共性の創出

情報社会分科会

テーマ9 電子情報社会の課題と展望 -デモクラシー・経済・学術・文化・セキュリティ

社会の再生産分科会

テーマ10 安定した社会の再生産システム -家族・ジェンダー・福祉・医療・雇用

分野別委員会

2. 「素案」の概要

『日本の展望—学術からの提言2010』は、21世紀の人類社会および日本社会にとって喫緊の課題である持続可能な社会の構築を展望して、人文・社会科学、生命科学および理学・工学の全ての諸科学を包摂する「学術」がその総合力をどのように発揮すべきであり、することができるかについての学術からの提言。

第1章: 提言の前提として、提言主体が自らの役割をどのように把握し、学術・科学・技術の相互関係、また学術と社会の関係をどのように認識しているかを提示。

第2章: 21世紀の世界において学術が立ち向かうべき課題を具体的に4つの領域の「再構築」問題として位置づけ、学術がどのように貢献すべきかを展開。

第3章: 世界の諸課題に立ち向かう現在の学術それ自体の発展動向を考察し、学術が進むべき方向を研究分野に即しながら総括。

第4章: 日本の学術が21世紀の人類社会への十全の貢献を達成するために、学術に関わる政策と体制がどのようなものであるべきかについて具体的に提言。

第1章 『日本の展望－学術からの提言2010』の背景

- ・ 日本学術会議と科学者コミュニティ
- ・ 学術とは何か
- ・ 政策における学術と科学技術
- ・ 社会と学術の関わりとつなぎ方

社会的課題の解決

第2章 21世紀の世界において学術研究が立ち向かう課題

- ・ 人類の生存基盤の再構築
- ・ 人間と人間の関係の再構築
- ・ 人間と科学技術の関係の再構築
- ・ 知の再構築

学術の営み

第3章 21世紀の学術研究のダイナミズム(動向)と展望

- ・ 人文・社会科学
- ・ 生命科学
- ・ 理学・工学
- ・ 学術研究の近未来

第4章 21世紀の日本における学術のあり方－課題と展望

- ・ 日本における学術政策の現状
- ・ 人文・社会科学の位置づけとその展望
- ・ 学術とイノベーション
- ・ 女性研究者の現状と政策課題
- ・ 学術研究の位置づけと国際基準
- ・ 学術研究の拠点としての大学の課題
- ・ 若手研究者育成の現状と政策課題
- ・ 日本学術会議が果たすべき役割
- ・ 日本の新しい学術政策に向けた提言

学術の体制・政策

3. 各章の構成と内容

第1章 日本の展望—学術からの提言2010』の背景

(1) 日本学術会議と科学者コミュニティ

(2) 学術とは何か

学術は、「科学技術」(science based technology)、「科学・技術」(science and technology)より広く、人文・社会科学を含むことはいうまでもなく、すべての分野における創造的・知的活動の総体。

(3) 政策における学術と科学技術

21世紀人類社会の課題解決のためには、諸科学の総合としての学術の一体的取り組みが不可欠。

(4) 社会と学術の関わりとつなぎ方

- ・ 「知のための学術」および「社会のための学術」は、相携えて社会に貢献。
- ・ 学術が役割を果たすためには学術と社会の協働関係が必要。

第2章 21世紀の世界において学術研究が立ち向かう課題

(1) 人類社会に対して学術はどのように貢献できるか

- ・ 2002年『日本の計画』(第18期日本学術会議)のコンセプトを受け継ぎ、持続可能な世界を実現するための課題を4つの領域の再構築問題として考察し、社会的課題を展望。

(2) 人類の生存基盤の再構築

- ・ 持続可能な世界のあり方を世代間の公平および地球規模での地域間の公平の視角から提示して目標を明確化。
- ・ 地球環境問題の解決を目指すために、国際的協働に立った学術の総合力を強力に展開。

(3) 人間と人間の関係の再構築

- ・ アジアにおける日本の立ち位置を「互惠・互啓・協働の原則」として規定し課題を提示。
- ・ 個人の尊厳と社会参加の保障を実現するべく、税制・社会保障・雇用政策・医療等の持続可能なシステムの構築の設計と必要な条件を提示。

(4) 人間と科学技術の関係の再構築

- ・ 科学技術が人間にもたらす成果と問題をどのように学術が受け止め持続可能な社会の構築に導くかを、2つの重要問題、リスクに対応できる社会および情報社会の問題に即して提起。

(5) 知の再構築

- ・ 大学は教養教育の課題を踏まえて、専門基礎の学部教育、専門教育の完成を目指す修士課程、専門分野の最先端研究を目指す博士課程の役割を確認し、総合的な観点から人材育成を図り、また、市民の生涯教育の機会の整備が必要。

第3章 21世紀の学術研究のダイナミズム(動向)と展望

(1) 科学者コミュニティは学術の展望をどのように語るか

- ・ 人文・社会科学、生命科学および理学・工学のそれぞれの研究領域に即して社会的、学術的な課題と展望を提示。

(2) 各学術分野での学術研究のダイナミズム(動向)と展望

① 人文・社会科学

- ・ 人文・社会科学は、人間の尊厳・人間の多様性と平等の発展可能性を追求する価値的態度を基底に学術における先導的役割を発揮。

② 生命科学

- ・ 生命科学は、人のあり方や倫理問題、生殖医療の問題など人間の尊厳と生命の原理的把握の問題に直面して大きな転換点に立ち、新たな方向を模索。

③ 理学・工学

- ・ 理学・工学は、真理探究の科学および人工物を作成する技術によって社会の発展に貢献、人類社会の現下の課題についても俯瞰的な見地に立ってその解決をリード。

(3) 学術研究の近来

① 学術研究の発展

- ・ 学術研究の発展は、すべての学術を支える基礎科学の推進が基盤。
- ・ 諸科学(文理)の連携・協働を強化、さらに「持続可能な社会構築の科学」のような統合的研究の推進、統合の科学の構築。

② 学術研究の人的基盤

- ・ 人的基盤については、若手研究者に俯瞰的視点から学術の課題に取り組む機会を作り学術の近未来を担う人材の育成
- ・ 科学者コミュニティを組織する学術研究団体の活動を支援する政策を展開

第4章 21世紀の日本における学術のあり方—課題と展望

- (1) 日本における学術政策の現状
- (2) 学術研究の位置づけと国際基準
- (3) 人文・社会科学の位置づけとその展望—総合的学術政策の必要性
- (4) 学術研究の拠点としての大学の課題
- (5) 学術とイノベーション
- (6) 若手研究者育成の現状と政策課題
- (7) 女性研究者の現状と政策課題—学術分野の男女共同参画推進のために
- (8) 日本社会が必要とする新しい学術政策に向けた提言

・ 学術が持続可能な人類社会の構築を展望して学術の総合力を発揮するためにいかなる学術体制と政策が必要かを分析し、提言を具体化。

- (9) 日本学術会議が果たすべき役割

提言1. 学術の総合的发展の中で「科学技術」の推進を位置づける

- ・ 学術の総合的发展の中に「科学技術」を位置づけて推進。
- ・ 人文・社会科学を除外し応用志向の強い「科学技術」は、より広範な「学術」の中に位置づけ。
- ・ 人類社会の課題に応えるべく学術の長期的、総合的振興を図り、その中で「科学技術」の推進を明確に位置づけることにより科学技術立国を実現。

提言2. 研究に関する基本概念を整理し学術政策のための統計データを早急に整備する

- ・ 「基礎研究」、「応用研究」、「研究者」などの学術研究に関する基本概念を明確化。
- ・ 学術研究に関する統計データの長期の取得と分析の組織的体制の早急な確立。

提言3. 総合的学術政策の推進のため、人文・社会科学の位置づけを強化する

- ・ 学術の総合的发展のために、特に人文・社会科学の役割を位置づけ、その独自の発展を支援、自然諸科学との統合的研究における舵取りの役割を促進。

提言4. 大学における学術研究基盤の回復に向けて、明確に舵を切る

- ・ 大学における学術研究基盤の回復への明確な方向転換。
- ・ 基盤的経費増額による財政基盤の大幅強化。
- ・ 人員制限の緩和による研究環境の向上。
- ・ 学術研究の本質を活かすものへの評価システムの改善、過度な競争政策の是正。

提言5. イノベーション政策を基礎研究とのバランスを確保しつつ推進する

- ・ イノベーション政策を基礎研究とのバランスを確保しつつ推進。

提言6. 若手研究者育成の危機に対応する早急な施策の実施

- ・ 若手研究者育成の危機に対応する施策の早急な実施。
- ・ 博士課程在学者を研究職業人と位置づけ、経済的自立を可能にする公的支援の実現。

提言7. 男女共同参画のさらなる推進

- ・「女性研究者育成モデル事業」、「女性研究者養成システム改革加速」プログラムの実施継続、大学評価基準への男女共同参画推進状況を示す指標の導入などの推進。

提言8. 学術政策における専門家と日本学術会議の役割を強化する

- ・日本の学術政策が、長期的視点、計画性、国際的視点を確保し、学術と社会の複雑化する関連を視野において立案、作成されるためには、政府と科学者コミュニティ、その代表機関である日本学術会議との共同が重要。

(9) 日本学術会議が果たすべき役割

- ・ 人類の「営みとしての学術研究の本質と長期的視点を基礎に科学・技術を支え、文化的・社会的・国際的側面から総合的に学術研究を推進
- ・ 科学者コミュニティの担い手である学術研究団体との連携をいっそう実質的にし、日本学術会議の機能を強化。